

記事掲載：2022年6月

翻訳：2022年7月

## バイルートの学校を元気にする子どもたちの絵



爆発で被害を受け、ユネスコが修復したバイルートのセント・ジョージ・アシリア学校の運動場で、壁画を描く子どもたち。ユネスコと国連ハビタットが実施した活動。写真提供：UNESCO / Lebanon

ECW の資金提供により、ユネスコと国連ハビタットは、主要なイニシアチブである「リ・バイルート」<sup>※1</sup>を通じて、バイルート爆発後の学校を再建しています。

バイルートのハレド・ビン・ワリード学校とセント・ジョージ・アシリア学校で絵を描きます。今日は、いい天気です！



「リ・バイルート」イニシアチブの一環で、子どもたちが学校で壁画を描くのを手伝う芸術家。

写真提供：UNESCO / Lebanon

子どもたちは、運動場の大きな白い壁に色を塗る準備をしています。色とりどりの絵の具、絵の具入れ、絵筆、そして図面が運動場いっぱいには置かれています。子どもたちの楽しそうな声が聞こえます。

若手アーティストのマリージョー・アユーブは、溢れんばかりのエネルギーの子どもたちと一緒に、もうすぐ完成する壁画の絵に取り組んでいます。

「壁に絵を書くことで、子どもたちは、爆発後の学校の美化のために役割を果たしたことを実感できます」とマリージョー・アユーブは説明します。

2020年8月4日の爆発以降、[ユネスコ](#)と[国連ハビタット](#)が前述の2校で復興支援を実施してきました。その締めくくりとして、学校で子どもたちが絵を描く活動が行われました。[教育を後回しにはできない基金](#)（ECW）の支援により、ユネスコの主要なイニシアチブである「[リ・バイルート](#)」の枠組みの中で、被害を受けた40校が再建されています。

「壁に絵を描くことによって、子どもたちは学校に自分の足跡を残すことができます。今では、子どもたちは、絵を描いたことで学校の大切な一員となっています。今日、私たちはイニシアチブをとる新しい世代を必要としています」とマリージョー・アユーブは述べます。「芸術は、子どもたちが自分自身を表現するために非常に重要です。特にパンデミックの最中には、集中力、忍耐力、落ち着きを増加させます。子どもたちは、一緒になって作業したり、遊んだりすることを望んでいます。」

### 主要なイニシアチブ、「リ・バイルート」が希望をもたらす

「リ・バイルート」は、爆発の余波を受けて、2020年8月27日に、ユネスコ事務局長であるオードリー・アズレイによってバイルートから立ち上げられた国際的で主要なイニシアチブです。「リ・バイルート」は学校、歴

史的遺産、博物館、美術館、クリエイティブ産業など、爆発で大きな被害を受けたすべての分野の復興を支援します。

マリージョー・アユーブは、絵を書く前の準備として、子どもたちと壁画について考えるブレインストーミングを企画しました。

「アーティストやイラストレーターを必要とする仕事があることを一緒に学びました」とマリージョーさんは言います。「洞窟からアメリカのグラフィティまで、壁画の歴史を知ることから始めたのです。」

「さらに重要なこととして、私たちがなぜ絵を描くのかについて話しました。壁画には多くの場合メッセージが込められています。私は健康と幸福のための教育を中心としたメッセージを選びました」と彼女は話します。

年齢もさまざまな子どもたちは、このテーマを自分なりに解釈していました。彼らはイメージをふくらませて、まずスケッチをしました。その後、「平和」や「自由」といった大きな文字が躍る大きな壁に、絵具を使って絵を描いていきました。

壁の近くで、サリーが大きな蝶の羽に最後の仕上げをしています。

「蝶は、自由の象徴です。そして、カラフルです」とサリーが話します。

「私の学校みたい！何年後かに学校に戻って、私の描いた絵、私のマークが壁に刻まれているのを見るのが楽しみです。」

※ 1 リ・ベイルート：2020年8月4日にレバノンの首都ベイルートで起きた大爆発で甚大な被害を受けた学校、歴史的遺産、博物館、ギャラリー、クリエイティブ経済（アートやデザイン、科学や技術を含む様々な創造的な産業・経済のこと）の復興を支援する国際的基金の活動のこと。「リ・ベイルート」はアラビア語で“ベイルートのために”を意味する。

【翻訳前の記事（英語）】

<https://ecw.exposure.co/bringing-vibrant-life-to-schools-in-beirut>

この記事の原文は UNESCO により執筆されました（[原文](#)）。